

埼玉県の水稲作における課題①

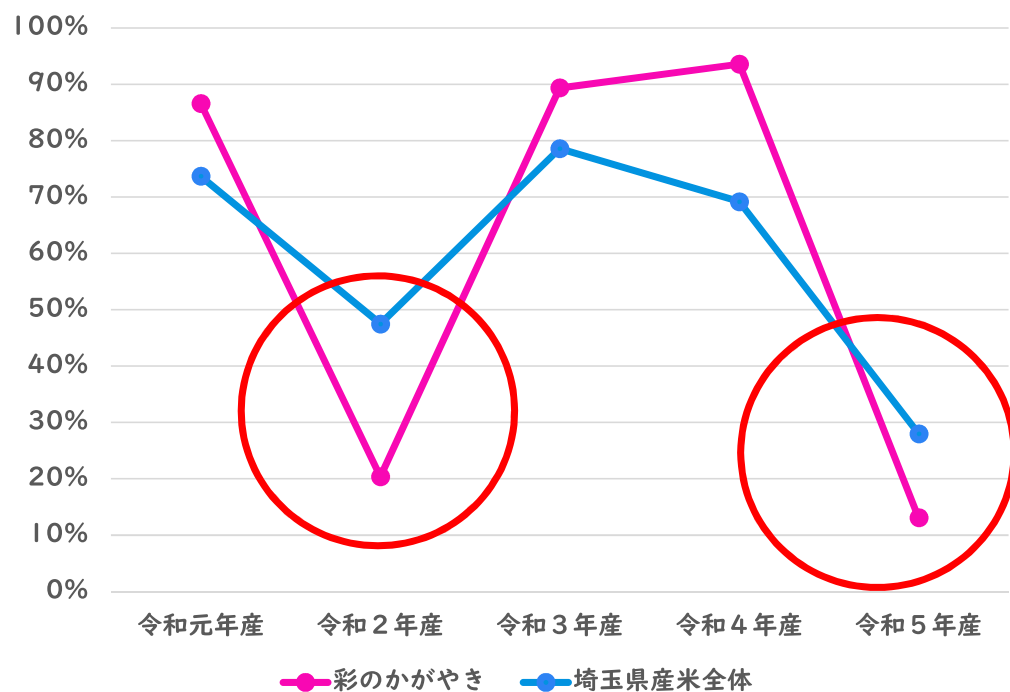
平均気温が
最も高い時期

5月			6月			7月			8月			9月			10月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
			彩のきずな														
			彩のかがやき														
						彩のかがやき											

この作型で
高温障害が多発！！

埼玉県の水稲作における課題②

直近5年間の1等米比率の推移



農林水産省公表 米の農産物検査結果より引用

高温障害の発生により
等級が低下



生産者所得の減少



○お米の等級とは・・・

農産物検査により、外観品質が良い順に【1等】、【2等】、【3等】、【規格外】の4段階で格付けされる。
等級に比例して買取価格は高くなる。

咲いた米・みらいプロジェクト推進事業

○事業の目的

県民の食生活の最も基本的な糧となるべき「県産米」を将来に渡って安定供給が可能なものとするため、気候変動に対応する生産対策を進める。

○目指す姿

県産米全体の収益の向上 → 生産者の継続的な経営



気候変動に対応した安定生産対策

①安定生産技術の確立

→「えみほころ」の高品質・安定生産に向けた栽培方法の検討

②新品種「えみほころ」導入に向けた取組

→現地実証ほを設置し、検討会を開催

→一般種子の確保に向けた調整



関係機関との連携



①安定生産技術の開発

暑さに負けない! 彩のかがやき栽培暦

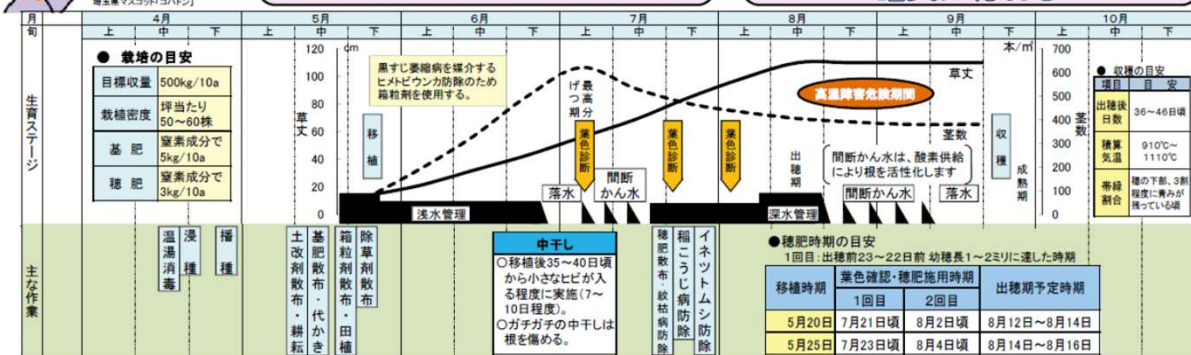
早植栽培

暑さ対策の
2大ポイント

移植期を遅らせることが有効な手段
出来る範囲で移植を遅らせよう

※農薬用水の取水時期・量は地域毎に決まっていますので御確認ください

葉色の低下は高温障害の危険信号!
葉色診断による追肥を
確実に行おう



県農業技術研究センターで様々な
試験を実施

- 最適な施肥量は?
- 追肥はいつ頃がベスト?
- 収穫のタイミングは? etc.



**高品質・安定生産を
目指した栽培暦の作成**

<p>育苗</p> <ul style="list-style-type: none"> ○温度管理に注意。30℃を超えるような高温はムシ苗や苗立枯病の原因となるので絶対に避ける。 ○晴れた日のトンネルのかけっぱなしは厳禁! 	<p>穂肥</p> <p>○上表「穂肥時期の目安」および下表「葉色診断による追肥方法」を参考に実施!</p> <p>○一発肥料の場合も葉色4以下の場合は穂肥を行う。</p> <p>●葉色診断による追肥方法(追肥量は窒素成分、葉色は鮮落値)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>移植後40~45日頃</th> <th>穂肥① 出穂前23~22日</th> <th>穂肥② 出穂前15~10日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>葉色</td> <td>4.5以下</td> <td>4.5以上</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>2kg/10a程度追肥をしない</td> <td>3kg/10a; 4以下になるまで追肥は行わず、4まで低下したら追肥 2kg/10a程度を追肥。</td> <td>2kg/10a程度を追加施用</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: 穂肥①施用時の葉色が著しく低い場合(3以下)は穂肥②を出穂前15日頃に行う。</p>	時期	移植後40~45日頃	穂肥① 出穂前23~22日	穂肥② 出穂前15~10日	葉色	4.5以下	4.5以上	4以下	追肥	2kg/10a程度追肥をしない	3kg/10a; 4以下になるまで追肥は行わず、4まで低下したら追肥 2kg/10a程度を追肥。	2kg/10a程度を追加施用	<p>出穂～収穫までの水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○穂肥施用後～出穂後7日までは湛水状態を保つ。 ○出穂後7日以降は間断かん水を行う。 ○間断かん水は一週間を1サイクルとし、3~4日ごとに湛水と断水を繰り返す。 ○完全落水は収穫10日~2週間前とし、早期落水は絶対に避ける。 	<p>収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○穂下部の帯緑色が抜けにくい場合、穂全体が黄化してからでは刈り遅れとなるので十分注意する。 ○特に高温時には、刈取適期が積算気温の目安よりも早まるので注意!
時期	移植後40~45日頃	穂肥① 出穂前23~22日	穂肥② 出穂前15~10日												
葉色	4.5以下	4.5以上	4以下												
追肥	2kg/10a程度追肥をしない	3kg/10a; 4以下になるまで追肥は行わず、4まで低下したら追肥 2kg/10a程度を追肥。	2kg/10a程度を追加施用												

②新品種導入に向けた取組



水稲生産者をはじめ、
関係機関など合わせて
約70人が参加しました

②新品種導入に向けた取組

種子増殖の流れ

【原原種】
農業技術研究センターが生産



【原種】
埼玉県種苗センターが生産



【一般種子】
種子生産者が生産

一般生産者へ供給

○新品種を一般生産者が栽培できるようになるまで**最低3年**かかる

○「えみほころ」を広く普及するためには**一般種子の生産拡大が必須**



種子産地等と協議を重ね、**一般種子の確保**を図る

来年度以降の取組み

- ① 「えみほころ」の栽培暦の作成
→ 高品質・安定生産ができる技術の開発・普及を進める

- ② 県内全域に栽培展示ほを設置
→ より多くの生産者に新品種「えみほころ」を知ってもらう

- ② 一般種子の確保
→ 「えみほころ」の普及に向けて種子産地を拡大する